

## 記憶のマチエール #6 &lt;D-25&gt;

映像学科 大津はつね

## La Matière de Mémoire #6 &lt;D-25&gt;

Department of Imaging Art OHTSU Hatsune



平成元年より毎年制作を続けている詩的ドキュメンタリー『デ・サイン』シリーズを継承し、平成21年から、太平洋戦争体験者取材した『記憶のマチエール』シリーズを制作。今年で第6回目となる。今作は元海軍少尉の折原氏にお話を伺った。折原甘三氏は、南方戦線から戦闘指揮所においてオシロスコープを駆使し航空部隊の作戦補佐にあたった。度重なる移動命令、不眠不休の任務、広島・長崎の原爆…終戦から69年を経て、生涯で初めて戦時中の記憶を語って頂いた。折原氏は、現在92才（2013年取材当時）。大正11年東京生まれ。電機学校から、東京電気株式会社（現・東芝）に入社。昭和16年12月、入社から程なく、太平洋戦争が勃発。否応なく戦争に巻き込まれていく。

海軍入隊後、氏はブラウン管やオシロスコープ等の技術に明るいことから、そのような技術を駆使して情報を集める作戦補佐となった。九州からラバウル、更にフィリピンへの度重なる移動命令。氏は1944年10月のレイテ海戦後、一旦は「切り込み隊」隊長に任命されたものの、ある事情によりフィリピンから輸送機で台湾・上海を経て日本へ帰還。その時フィリピンを脱出できた事が、氏の生死を分けたといって良いだろう。氏によれば海軍上層部は皆、かなり早い段階（昭和18年頃）から「この戦争は負け戦である」と話していたという。当時は情報統制により、そのような事実は国民には全く知らされなかった。さらに氏の話から、当時海軍の中核にいた人の中には、敗戦後も政財界の中核で活躍した事が多い。

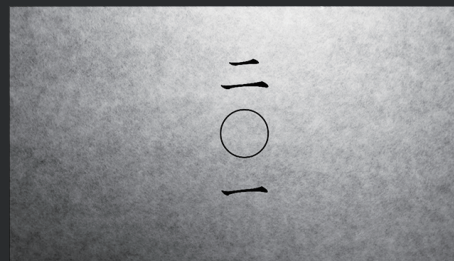
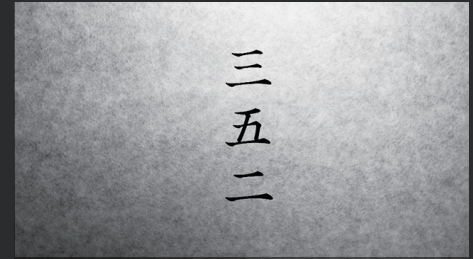
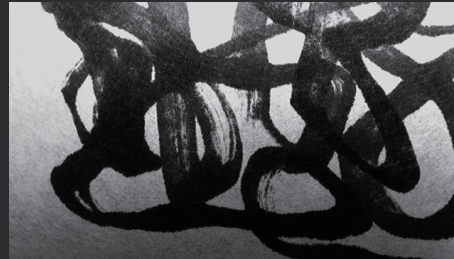
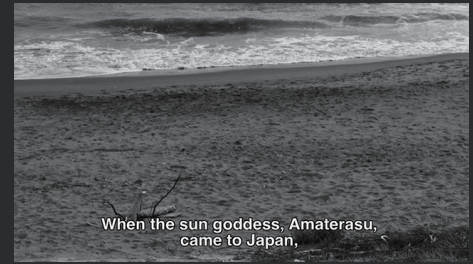
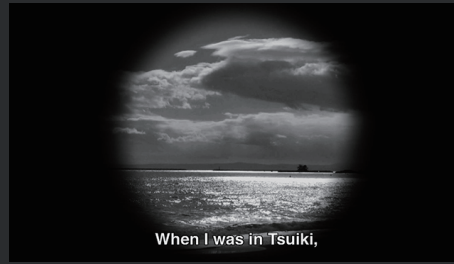
今回のインタビューの中で、氏は特攻隊については多くを語ろうとはしなかった。我々には、計り知れない語ることの出来ない体験もあるに違いない。

我々が知る事ができるのは、事実の断片にすぎないが、断片であっても体験者から直接話を聞く事で、まだ見ぬ局面が浮かび上がってくる事を、その作品を制作する中で深く実感した。

《キャスト》折原甘三（ORIYHARA Kanzo）《スタッフ》カメラ：田中綾子（TANAKA Ayako）、大津伴絵（OTSU Tomoe）、大津はつね（OHTSU Hatsune）、ドローイング：大津はつね（OHTSU Hatsune）、CG：田中綾子（TANAKA Ayako）、音楽&ギター：風間正（KAZAMA Sei）、翻訳：藤松郁（FUJIMATSU Iku）、取材コーディネイト：大津伴絵（OTSU Tomoe）、監督：風間正（KAZAMA Sei）

デジタルカラー/HDV/26分/2014





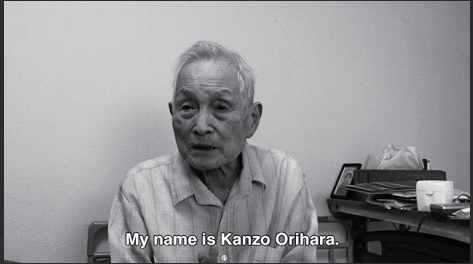




The island of Kyushu has a strong connection with the southern, tropical cultures.



They fought with Amaterasu in the Kinki region.



My name is Kanzo Orihara.



First I was sent to join the 352nd Aviation Corps.



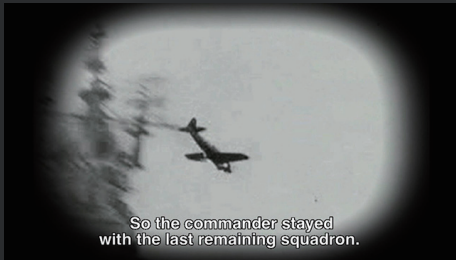
So I was sent to Rabaul Aviation (Papua New Guinea)



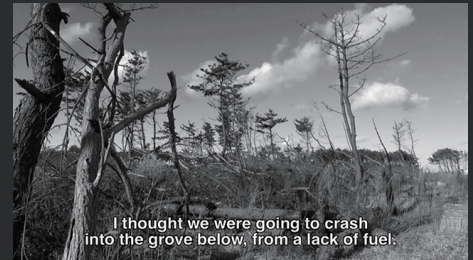
I informed them and taught them about waves.



There were around 380 airplanes that participated in the Leyte Battle,



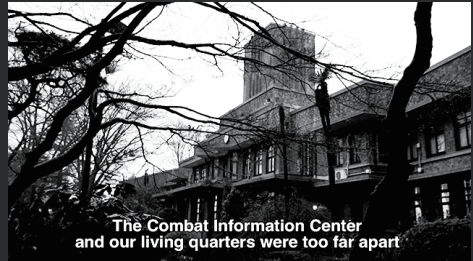
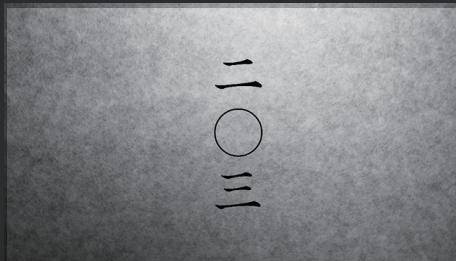
So the commander stayed with the last remaining squadron.



I thought we were going to crash into the grove below, from a lack of fuel.



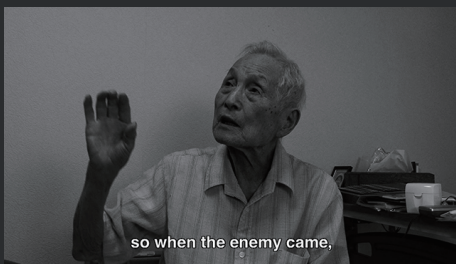
I stayed with unit 208 till the war ended.



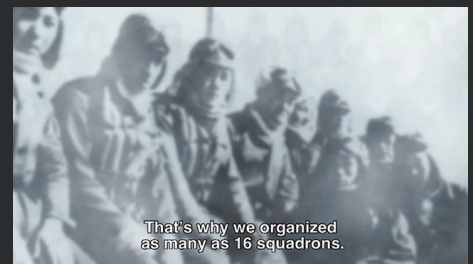
The Combat Information Center and our living quarters were too far apart



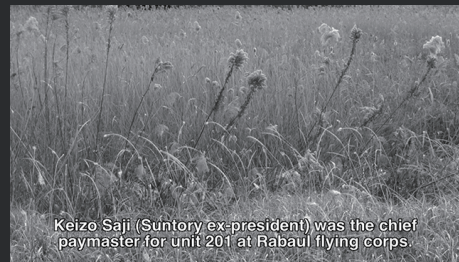
We had 8 lookout locations plus more than 10 oscilloscope locations,



so when the enemy came,



That's why we organized as many as 16 squadrons.



Keizo Saji (Suntory ex-president) was the chief paymaster for unit 201 at Rabaul flying corps.



His brother Torii (Suntory ex-vice president) was a classmate of the former Prime Minister, Nakasone.



